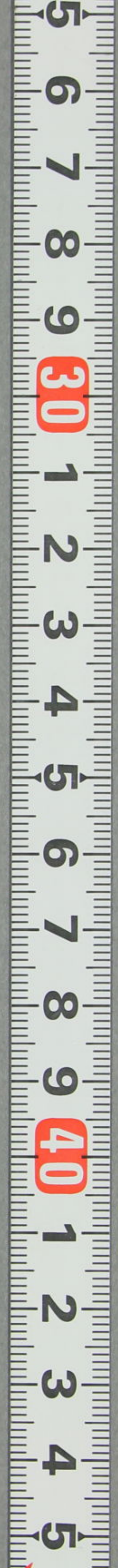


峠集春

5  
1500  
1



新  
1.500  
1

應泉老人撰

類題  
發句  
二  
醉集  
全部  
四卷

弘秀堂梓

多

詩之工之體詩あるは家  
後之其あるは詩の  
之初之工之體詩あるは家  
此之體の集るるはこれに  
明季より之もあるとは  
己より之もあるとは



とめく けな子乃きゆや  
 か けりきまの甲うはる  
 けりきまを人のまゝんや  
 けりきまをけりへーとあ  
 るけりきまをけりへーとあ  
 るけりきまをけりへーとあ  
 るけりきまをけりへーとあ

一よあ けりきまを人

凡例

一類題發句三辨集と異作を明和五年頃を皇天保弘化  
 の今に至る法由好士好風吟をさかい其集先けりぬ実情  
 此作依一辨を依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 か依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 他例の似通ひを依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 同列の依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 一題を依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 順逆を依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 法集の依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて  
 あらう字を依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて依りて



年男	福壽艸	若菜	薺	芥	七種
初曆	懸相文	羽子	手毬	宝引	網曳
尤美長	トノト	御忌	山笑	水暖	残雪
春雪	淡雪	雪解	雪 <small>ナク</small>	餘寒	冴帰
春寒	春日	春夜	春暮	田打	畑打
下萌	若艸	春艸	毒	松の花	木の芽
路の莖	土筆	白魚	蛭	猫意	
○三春之部					
永日	遲日	長閑	麗	暖	東風
陽炎	霞	佐保姫	菜摘	柳	椿
独活	山葵	防風	若布	海苔	雉子

雲雀	鳥囀	春雨	春風	春月	○
如月	二日灸	初午	ひん	初雷	初虹
朧月	朧夜	涅槃	踊念佛	出代	養父入
春水	春河	春海	春山	春野	山燒
野燒	几巾	接木	挿木	苗代	種蔣
麻蔣	大根花	菜花	花蔀	菊苗	虎枝
蒲公英	辛菜	狗杞	蕨	五加木	末黒薄
芦の芽	紅梅	初花	初櫻	帰雁	引鶴
曳鴨	雀子	蜂	虻	乙鳥	蝶
落角	孕鹿	蛙	田螺	寄居虫	貝寄
弥生	汐干	雛祭	雛酒	艸餅	鷄合



初鷄 初鴉 初曉 初室 初日出

居たりぬや正月あはれ小田の居六升六  
 まるまるとありと拂ふ孫乃莖、お階  
 人の目や孫乃ほりをそぢる立、若助  
 正月乃おありもそ〜次指魔六。月鴻  
 正月乃嬉〜ををえと山と水、蒙吏  
 正月の行は〜のやあ乃雨、京花  
 歌のさけ〜む月乃、挂二  
 正月と〜波もぬさぬむ月うゑ、應化  
 正月やまりすれ〜は葉の〜先、吾来  
 正月や湯屋の割出乃長〜し、応泉

隅もあはれと天乃居也初日乃出京 園更  
 あはれと〜一雨ぬり〜初日乃出下 央千  
 木々あはれ〜声き〜し初 鳥五 宇弘  
 初鳥あはれ〜声と声てあ〜り〜。 曉山  
 烏帽子着てを川波のう〜持等六 大江丸  
 夕川影や〜おき〜子代乃夢。 椿老  
 ぬ〜き世乃山なりふ〜初日うゑ、芳岱  
 松竹乃濡る色〜〜を川日うゑ、賢之  
 夕川影〜あはれを起きり初日乃出、白二

初霞  
初東風  
若水  
初春

初霧やまよふ梅ぬ人々うらり〜京梅室  
初らりや辻竹籠乃き〜大栗  
初花のうらや人をよてふい〜千賀見  
まよふ〜長ハまう初日新 応永

落きものふのふ〜江戸 葵松  
日の出ま〜川 風朗  
初らりやユマ乃の〜一蕙

初東風〜大江丸  
初らす〜花山の陸乃 夢南  
初らるの文を〜三考

初東風〜蕉月

ま〜沙鷗  
窓〜白二  
花津ハ〜雲化  
あ〜ちり又  
花津や〜応永

明の春  
君の春  
花の春  
今朝春

あ〜升六  
あ〜成美  
あ〜木海





屠獲  
大福

靴の毒に於て子の毒は此より分る  
身は白くまじしきぬは此より分る  
人の毒に於て此より分る。川丁  
元日乃元日のかりり人ハ氏士  
え新やいやうは此より分る。卓地  
歩解しは此より分る。白二  
人並しは此より分る。月吟  
ふりれは此より分る。急化  
三日の終り此より分る。忘泉

太箸も脚も多し。子乃麻子。糸  
太けしを此より分る。白二

菲莫  
太箸  
水祝

菲莫も此より分る。新箸も  
水は此より分る。此より分る。押囊

左けし此より分る。此より分る。小圃  
まじし此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る

惠方  
歳徳

此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る  
此より分る。此より分る。此より分る

掛鯛  
門松  
飾菜

門松をいざなれ出たり和れり果  
掛鯛をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。大可

多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

蓬菜

蓬菜の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

野光

野光の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

着衣始

着衣始の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

寝積

寝積の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

書初

書初の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

弓始

弓初の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

彈初

彈初の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

初夢

初夢の山をいざなれ出たり和れり果  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下  
多し多しと一呼おろし飾菜。月下

万歳 猿曳 拾ハミ 拾の舟 賣初 棚却

初着やおゆえそくそそ 一仙  
 初着をそくそく ちう尼  
 子もそくそく 友徳  
 旧の早稲るかき 亦泉

携うけて乃采と少人山家 一茶  
 茶の府 一茶

今もそくそく 壯厚  
 乃采や波世ふく 月河

去久初やあもそく 白二  
 初五口のあはあす ちう尼

あいのよしそく 一兆  
 持しそく 上毛 立志  
 あふそく 三千

三月やあひそく 下毛 井外  
 初曳の先けそく 首尊  
 ねと子とりそく 月坡  
 万葉や日乃りそく 宇里  
 東はそく 石多  
 乃采乃取きえそく 亦化

初子日  
人目  
小松曳  
居籠  
年男

子の目やし鶴了五乃三つりりハカまを屋  
を添てむをせすりし小松うふ京ル葉  
小松曳いさぬ廣き遊ひイタミ紫金  
人の目やしすれ初山乃月ムツサ電丸  
山家うと出て素直なりと一男ハラマ古谷

祝美とてちうもいま候小松引カヒ可於里  
舟歩り後りしき川小松引山呉明  
人の目し然くもゆききさくはうぬ。里松  
子む海と云うるす川の通りりも。椿老  
あめめをねの字へな一初子の目、士山  
右ありとやめき足し出多子の風ふ。白二

福壽州  
若菜  
芥  
芥  
七種

松の中子の目おす川の通りりもキキ月敏  
右子りし多のふ小松の吟うふ。葉吏  
小松曳乃後の中川を焚きし。大可  
子留ハ一紀魚乃拵ふて小松曳。一水  
若菜はとてさるぬ遊ひ初子の目。心泉  
蒼ても今新と花なりを後香州京浩節  
新しうさく淋しもまた後香州。春室  
伸多しぬくちうるふのちうも。可然  
賤をまゝぬ遊ひや芥くし。東雲  
小村う一まりし出れり若菜うふ。名人

は山よりふして作ぬ茶うぬ 曉山  
あついのちをさるもほつきよふふ 応泉

七子や子ををるさよと想うる <sup>五八</sup> 都春

あつる今作しつるを後春州 <sup>五九</sup> 沙鷗

梅をけて寒い世よふふ <sup>六〇</sup> 鼎左

影のくいのそふ <sup>六一</sup> 一胤

梅をわすれを賞おふふ <sup>六二</sup> 梅室

賞入足しとをぬき梅やふ <sup>六三</sup> 雲山

芥あしてさるのさ <sup>六四</sup> 芽岱

若あゆ <sup>六五</sup> 白二

梅つゝす母と人の世 <sup>六六</sup> 可守

七子や教ありて身 <sup>六七</sup> きよ女

母の眼のさめ <sup>六八</sup> 漢物

教の眼乃さめ <sup>六九</sup> 水竹

後春州 <sup>七〇</sup> 屋鳥

乙をを肉 <sup>七一</sup> 幽

七子 <sup>七二</sup> 夏南

七子 <sup>七三</sup> 涼谷

娘 <sup>七四</sup> 千路

あ <sup>七五</sup> 貞僧

懐 <sup>七六</sup> 雪席

初曆 懸相文 羽子 手毬 宝引 細曳

くいろ色も足る月ふるかの底にほれ 桂二  
あゆむて度きおほひのそふぬ 大可  
出帆てつむうちハ掛りぬるふぬ ちうえ  
後引やちさ形して口さしい ちうえ  
後引や船とん 川丁

後引や順り 大江丸  
災し死すなりあけ迎むら 梅通  
らさつとほのそぬけるまきんか 護物  
松風をあらしふぬ子のたまふ 市月  
後引やちさ形して口さしい ちうえ  
後引や船とん 川丁

尤義長 トント 御忌 山笑 水暖

子の戸を大小のやと川曆 応化  
常しやう 器もきぬや熱お文 オウニ具  
とぬ敷いてそらぬや羽子の友 日 淇石  
後引やちさ形して口さしい ちうえ  
それぬ子をそめりきや挽り人 白二

ゆと川寸曉まな 御忌のし 芥菜犯  
尤義長やあむおもち一ちあり 馬良  
くくくもやとぬや不二の山 虎木  
此忌のくく 鴨の出さふあて 圭

殘雪 春雪 終雪 雪解 雪ナタレ

冷く風の出さふちのたか エト 搗水  
 足爪のり ヨリ 彫居  
 沈思の ヨリ 葉更  
 ぬ 北 節  
 としと 下 太爺  
 幸子 白 二

ぬ 虚 白  
 東の 尺 艾  
 乃代 芽 岱  
 億馬 心 泉

世 一 茶  
 雪 松 兄  
 雉 三 志  
 文 童  
 竹 風

雪 宇 栗  
 虚 白  
 太 爺  
 今 是  
 梅 室



東も雪の解る春しそ子外は 風也  
澄雪如人也又知と料理くも エト 山外  
残る雪爐の煙吐りし清きく子 白二

春来し日の照り細やのさゆ 香 芳亭松  
清き雪如来全舟次志のらりく 学笠  
雪白如来全舟次志のらりく 香 香亭  
けしめく未雨乃晴しそ子外は 棠花  
そよよのつとくしぬしやもそ雪、 二奥  
よよの雪より更しそ子外は 雲丘  
而ふき日初しあし如雪ふもぬ 芳岱  
おぬいつてそ子外は 忘泉

餘寒 冴帰 春寒 春日 春夜 春暮

冴り冴り冴り冴り冴り冴り冴り 標堂  
立ふぬとましくは春のそよふ エト 茶静  
春の日の光りしそ子外は 賢之  
春の日の光りしそ子外は 悟漸  
日の光りしそ子外は 道彦  
出遠いよあし如雪をのほふし好 系 標堂  
春の日の光りしそ子外は 其碎  
春の日の光りしそ子外は 釜吏  
春の日の光りしそ子外は 挂二  
春の日の光りしそ子外は 可怨

次阿のうけつえ申しそ山法師 白二

うい来乃何しやいけきぬ案し哉 確巖  
まの如や何あまをまても鳥の毛。 文也  
あう〜と物乃子そつ川を日とふ 吾 吾人  
あよ〜とまこもす〜かを四とふ 吾 吾人  
まのあや村と心人乃〜いそ 昔 茂推  
まのあや第い上戸小賤り均と 心 尔

田歩  
畑歩  
下菊

年〜とや里乃山畑歩のふ休 春 曉庵  
畑歩や系あまも足えと着うま石 其 村  
向ふ〜畑あ〜とまは枯睡りぬ 六 寄 洞

若叶  
春叶

任ふ〜花足と歩守門やま乃子 一 七 理 玉  
あふ子乃 鈴うあ〜りまのあ 后 考

新葉乃云月とまや田歩可菊 若 之  
系のむ〜とあ〜と歩畑のぬ 柳 乾 水  
とろ子也起る中〜ともあま〜と 記 玉  
海乃や畑歩は〜とあ〜と〜と 山 一 帆  
馬士ま〜と畑も歩や山乃葉を 三 有 亦

雲と花の云月と〜と〜と〜と月  
まのむ〜と才〜と〜と〜と〜と五 柳  
系のむ〜と才〜と〜と〜と〜と水 山  
いふ〜と〜と二人あ〜と〜と〜と〜と 山



梅遠きいひまけすしや菘の家 菖三  
 人呵万坊まを毎まを梅乃念 蒼虬  
 花ぢうつひまけをまをりしうふ 下 再青  
 人呵万声よんおとふ梅 梅室  
 横叶をわすしとるまや梅の念 学望  
 負まぬたといよふ一梅の念 六 万和  
 負しうにけしうまぬ梅の念 李近  
 益すうく梅しうく 嘆此梅 石蕙  
 益すぬく初もるえぬやまのの念 梅 梅 梅  
 赤出まを梅白折る 梅 山  
 梅折や尺そ折る 出まを 五 浪  
 梅折しうまをまをらぬの念 白二

梅折し伸る味やまを子 正令  
 梅折し多むいしう梅乃念 梅 價  
 酔てまてまをけのり 梅 再 音  
 酒のまをまを梅しう 梅 意  
 梅の念は出したまや梅の念 古 翠  
 花咲まをまの梅をぬぬを 梅 茶  
 梅し出ま梅ま梅やま乃上 冥 山  
 梅折まをますし 梅 榮 吏  
 かしけしうまを梅まをぬぬ 下 志  
 白梅や竹まをぬぬ 梅 一 著  
 世し人乃は梅いぬぬ 梅 二

牡丹梅竹もあはれぬあはれなりけり  
 出のころあはれあはれや梅さよふも梅の花  
 水のうへあはれあはれ梅もあはれなりけり  
 梅ともあはれあはれあはれあはれなりけり  
 人のあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 ふうれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 ちあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 馳せあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 といきあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 早あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 けあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 今あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり

吾来 梅菜 蒼虬 砂鷗 一茶

牡丹梅竹もあはれぬあはれなりけり  
 出のころあはれあはれや梅さよふも梅の花  
 水のうへあはれあはれ梅もあはれなりけり  
 梅ともあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 人のあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 ふうれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 ちあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 馳せあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 といきあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 早あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 けあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり  
 今あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれなりけり

吾来 梅菜 蒼虬 砂鷗 一茶

白 兎  
規 猫  
戀 猫

玉手而し甲を起のふりし梅乃元。さひき  
 梅の魚の叶く甲なりり明り家、文龜也  
 梅の鳥也甲なりしうもれた時を  
 月世をくしとまなり梅の元 丁五  
 玉手しとありしとこの蛾の物 恋泉

白兎乃身より更し起いのちう水 士郎  
 猫の恋河の東うちうし何れなき 櫻堂  
 恋やせはさぬるも 解し猫乃鈴 子 竹徑  
 ナらうちありれかうりり猫の恋 一毛 春外  
 多てあめを一束之をぬる店乃猫 禾木

恋をひて系すを出入り失昏の猫 藍老  
 系の本みしととわりし 猫乃恋 風起  
 猫の恋網と小袖をみたりし 奇洞  
 舟乃猫恋を分るぬも何れなり 若 羽堂  
 ねんをの希もあつて規とを 可恋  
 捲き出寸規小をしとをたつ明 白二

白兎乃葉よりちゆるすて月乃を 奔蝶  
 白兎やほましくねあも焚のこを。 文里  
 とうきとめは白とをくやうれ猫、 可成  
 恋すしとくし系の能猫乃書 芳台  
 脱乃の<sup>子</sup>とまのうハ猫乃恋 恋泉

三春之部

永日 逢日 長保 麗 暖

日永し〜初〜り多〜や晴の多  
長き日や暖縁の佛乃信屋也  
永い日をも〜ぬ〜う迎て高き〜  
〜い〜を〜位〜す〜は〜も〜永〜日〜永〜り〜ぬ。  
長保さや祇園の鳥香き〜  
養乳 多〜ぬ 梅露 寺也 寺階

長き日や涼〜を〜龜の〜め〜ら〜  
永日も〜舞〜す〜や〜浦ハ〜  
上戸〜と〜い〜雨の〜降〜日永〜ぬ  
長保さや肉乃佛香き〜  
不二川や〜も〜  
木海 日人 助宣 文若 暖山

石〜〜や〜續〜連〜田〜来〜て〜名〜と〜  
白二

霏や多す〜は〜う〜を〜ま〜と〜  
霏や過〜〜  
霏や〜  
暖い日や暖きは〜  
名〜  
長保さや多〜  
永き日乃〜  
長保さや〜  
如柳 馬佛 花晓 鳳批 登矣 雲山 一水 榮吏 瓜系

東風  
陽炎  
霞  
佐保姫  
甘菜摘

陽を乃中まてくくた戸口ふ  
 暁春  
 産せめて餅もむさゆぬ馬哉六十年未  
 成災  
 牡丹えそとつまわくた戸口ふ  
 紅霞

山ねりきりよやあやうす欠ふ十六 月后  
 水鏡くつりれちめあり八重雲 乙二  
 羊子あつそくつ濃ふる葉うふ 万葉集  
 佐保姫の死くしそをひてどく由 奇剛  
 和さしてもあそむく小月産む 道彦  
 一鏡の葉より移りくそ 八重雲 可於里  
 陽を乃中まてくくた戸口ふ 一茶

后の月ねりよの和ましのすくはり 一果  
 一鏡の葉も折のくくた戸口ふ 梅屋  
 雛むらわくしそをひてどく由 湖中  
 彩の雛かきまきくそはの市 成貞  
 一灯いそりてんくくた戸口ふ 芽岳  
 佐保姫やまりれ花の鈴やより 白二  
 摘ぬ日とふいりむと葉菜畑ふふ 都甫  
 生を産くはまぬまふとありくそ 郁契  
 乙のそくくつらふのそおゆえに 梅室  
 梅子あや女産おぬくち娘あり次 白二  
 代すくくつらふは板のすくより 風部



柳 椿 独活 山葵 防風

細かき柳より出たふれよ人も好し 蒸る  
 葉のきれし出たふれよ人も好し 心泉

青くく柳乃うは築地ふ東 蝶夢  
 殊もせはかき木を付柳弁藤く 聖炎  
 日多月少は只かきりぬ交柳の形 久藏  
 又かきくくく名乃はく柳ふ 日人  
 まくくくく夕日のかろくくく 下 英父丸

柳まのまきくくくく 俣野の海 桂亭  
 まく柳や柳のくくくく 卓池  
 くくくくくくくくくく 糸菜

海にくくくくくく 柳乃くくくくく 角洲  
 時直合乃出たぬわと柳松うぬ 蒸雨  
 朝起しくくくくくく 門乃 霏うぬ。 可一  
 庁中のくくくくくく 交ぬ松可ぬ 文里  
 まく柳より香出してぬ 今河のぬ 大可  
 すくくくくく 一葉伸たる山葵下 具左  
 防風吹ぬくくくく 心泉 白二

まくくくくくくく ぬ松うぬ 石彦  
 生屑よりなきぬ乃ぬ 松可菊 鬼白  
 死のふ乃と柳よけておく 松うぬ 雨牛  
 掃くくくく 魚や五葉ふとわん 柳亭

木のりけおあきまうりいひる柳りふ茶山  
 独活刈や猿と視あき中酒汲 白二  
 生白平穀日の東のほを記ふ 庭雨  
 茂るあゆ一信赤き津も起ふ 応化  
 赤つる記あき中柳もあきまうり。 花紅  
 仔細音吹抑引いりりりりりり ちうえ  
 怪いりり月乃まうりいりりりりり 李迂  
 つり翠りの光ももつる抑りりり 夢遊  
 過ぎる柳り一版志あき抑りりり 応化  
 立わすれせーいをぬく抑りりり 葉吏  
 さゆーと再乃えー吹抑りりり 応泉

若布 海苔 雉子 雲雀 鳥囀

雉子啼や小ま川のさわゆる乃忘 士郎  
 うつりけあ雉子鳴林麻ーいりり 蒼虬  
 光りさ人まれを連あきあきあき 雪作  
 まうりりりりりりりりりりりり 雪頂  
 まうりりりりりりりりりりりり 日人  
 あえつりりりりりりりりりりりり 社簞  
 ま玉の二ヶ玉あきあきあきあき 雪笠  
 木のきあああああああああああ 桂二  
 雉子啼あああああああああああ 白二  
 天比川又ああああああああああ 三志  
 天の川あああああああああああ 西馬

初ありや子ややや和雅子乃一老り 菘雨  
大良くゆくうをたりお仕るりふ 三 菘雨  
東の雅子立所くわれと雅くし 千崖  
おりおふたりといあきやまを心 幸 楓 聖  
雅子ゆくとおし一後付るるを 極 聖  
里の灯り一後付るるを 四 山 上  
晴りお中し一晴し一 大 壺 川 吾 来  
早より定るるくくをえ晴るるるを 賢 之  
弄琴あしはるるもきくは晴るるを 梅 泉  
海苔をともふ業や飛あくおりる 山 外  
山ちや切目あし一知るる存け 白 二

まのややおもたはるるを色かたり 九 起  
近はくし物をも来乃をるるを 亦 求

あまは木も学す別もやまを危 秋 拳  
学すおも電も若もせぬるを音か 北 聖  
ちるあしは弄琴あしるるを音か 芳 岳

学すしややや和雅乃あまより凡 乙 二  
学すやまのあまのあまのあまのあまの 一 茶  
学すおもあまのあまのあまのあまの 太 竹  
あまのあまのあまのあまのあまの 岳 年  
学す和州のあまのあまのあまのあまの 荷 子





山風下りまきしれをふくやま乃ゆ 確嶺  
 山風乃あいたを吹きすのゆ エト 麻文  
 今風のゆりしり乃中を思ふるを 春耕  
 晴すまをゆもまのしん次ま乃雨。 花柳  
 まるや和漢を一日を練るり二日 松堂  
 樹下しりしはかまをいしをまをたゆ 棠花  
 石の清乃後下りむ可よやまのゆ 一海  
 まるや徳つりゆりよくゆを馬 白二  
 今一柱出るとの馬馬やまをたゆ 友徳  
 石の石下り料短とのゆや夕うすみ 子 杉多  
 畑歩乃ともめてまうくやまをたゆ馬 左宗

英しり口乃ゆとまゆまの月 冬六 其石  
 服のさめぬくちの海りてまの雨 ま 芦川  
 修下りし徳のまきやま乃ゆ 葉吏  
 まるや荒のまゆす後るの藤 桂二  
 杜芝のめつきりゆりぬまをたゆ 子 たいめ  
 服さきしに報備まをたゆを み たいめ  
 けしりしりしゆりぬまをたゆ 子 たいめ  
 まるの雨とて海をまをたゆ 里 兼  
 まるくまうけまをたゆ 子 たいめ  
 まるまの山うりぬり 子 たいめ  
 まるや忘事まをたゆ 子 たいめ

如月  
二日 亥  
初午  
むし

山寺よりうね陸の末はむしひ 養北  
如月也穂乃志きくはむしひ 壱塊翁  
竹桂をさむ一木二束おき 確巖

遠若ふ身を温泉ふりそりて二月ふ 賞雲

二月もあれとよきあぬ枝うぬ 升六

風もさくきく二月乃何く男 六五 明

そりぬれを多りぬる二月うふ 木隠

そり風乃くくそりあはれ二月うふ 大 楚岳

初午也血又せきしきく乳母う若 櫻堂

尾乃あつた血又せきしきく志くまふ 一具

石塔より響り引合守おりしうぬ 袿祥

初午取て畑をくく仲のあしうふ 多しぬ

戸透ゆり祝きあはれゆ二日帝 桂二

西奥きききく可くきくあしうふ 友徳

花程乃足あらうく千体おしうふ 白二

そり行ても京へ出らるく二月うふ 風高

そりゆりあつた仕おるぬむしうふ 万和

あつたゆりあつた海ふあつたうふ 可然

噓しうふ二日乃冬遠きうふ 戸 産友

尾乃あつたうふくく色乃二日帝 吾来

如月也響りもふりあつたあつた 映丸

如月也日の出あつたうふ山吹り 晓山

初雷  
初虹  
臘月  
臘夜

初年や全族よもりの北乃た川  
 初年や年始もろくし肉掃ち  
 捕まのりや〜〜〜睡るむし  
 如月や〜〜〜奇所〜〜〜家も道

水渡や静るゆりねのおぼろ月  
 和張る〜〜〜もそせし掩月  
 初虹や〜〜〜中乃免〜〜〜

提灯下お〜は我を世おぼろ月  
 お不呂東や隙の格〜〜〜  
 初雷乃夜や葉木〜〜〜

涅槃  
踊齋  
五代  
養父入

初雷〜〜〜ふり〜〜〜  
 雨晴るさく〜〜〜掩月  
 山ねやおり〜〜〜お不ろ月  
 月の如く〜〜〜おぼろ月  
 おぼろ月を〜〜〜斬る也。  
 新あは〜〜〜おぼろ月

老ゆ〜〜〜死た佛の南  
 佛あ〜〜〜を〜〜〜  
 養父入や〜〜〜  
 養父入や墓のねゆ〜〜〜

標山  
 下山  
 月下  
 月灯  
 梅年  
 赤糸  
 士殿  
 完来  
 青糸  
 一茶



菖入のこくろ丸のりや精を日サヒ相雨

花ふ入の二人り以るりカ更

花ふ入乃旅つカ梅精

表又入の信カ風飢

照榮命カ菓静

とらゆカ一蕙

まをカ教吹

表七カ白二

りカ翠之六

菖入や能ありカ松志

出代や猫カ弘々

此天カ松兄

出代や新カ鳥一

出代カ年廿

又カ二五

又カ秋萃

爪カ春柳

花カ正修

花カ玉出

唯カ組々

集カ応化

春水 春河 春海 春山 春野

涅槃舎や地ふくまも施すの中 芽岱  
 のまじりもあふぬえ地や涅槃像 亦泉

むすあまー海世へお供す水 春河  
 法海や東照して足きそよ水 九岳  
 まるの海へ中へ地へそ静なり 圭々  
 月さくともあふきさくさく水 元劣  
 海へさきもめてた地ものとも水 推巴

四月のあくさ海時とー春山 真眼  
 一村よりあつたおろし山 奇測  
 花あせしと花もあつた水 岳路

月の東より向ふそゆへ水 芽岱  
 一雨りも二雨りも水 白二

まるの水のそよ水をふるり 夜雨  
 あつた水の中へ水の中へ水 曉山  
 まるの水の中へ水の中へ水 成更  
 大海の波のそよ水の中へ水 上天  
 まるの水の中へ水の中へ水 白波  
 あつた水の中へ水の中へ水 天人  
 まるの水の中へ水の中へ水 已一  
 ありれーと見ゆる水の中へ水 風鳥  
 降るもー雨の中へ水の中へ水 降哉





新密やひひきけちと此種にたしイモ 鱈白  
多き苗てあてりひ枝持の赤穂イモ 下 鱈谷  
苗代やまきくくろ裾う口と赤次 月下  
苗代や軽木森の赤乃乾う片イモ 青松  
大根を雨より服と此あててイモ 白二

苗代を二度も免く赤や乾菘 夙也  
赤穂麦の刈さくい形を大根を 鱈尾  
甘菜の赤や白くちをわけて風乃立 鴨尾  
甘菜の赤くちをわけて中を赤うりて さい髪  
甘菜の赤や白くち一すく一は徳河 赤糸

菊苗  
虎杖  
蒲英么  
辛菜  
狗把  
蕨

ふいのくおほえて並ぬ赤乃苗 花馬  
山よりあるうをち折居赤蕨く赤 薬水  
多しゆく乃一息く一喉非以う赤カヒ 至馬  
虎杖や指ひく一ぬく片掛て赤 白二  
蕨よりく一ぬくされて持く赤カヒ 一 双

花も実もなるとて英一 蕨 賣イモ 八島  
二三者片くくくくひ乃料理系 赤 麦映  
赤くくくくくくくくくくくくく 鼠祇  
くくくくくくくくくくくくくく 梅茶  
狗把つむや洗ふく髪を于ふくくく 可治



歸雁  
 引鶴  
 曳鴨  
 雀子  
 蟻  
 蜂

明てゆく先ゆく序のふきく糸 月居  
 鳴る序ふきく私きてる日を送る 作 右指  
 啼ぬ一いゝく殊勝なり海より 三考  
 ゆく糸して子もふまぬや小田のノ 下チ 雲霧  
 互光乃きくも兄らま川まのノ 葵指

舟のゆく東と西をめぐりて序のり 乙二  
 曳く舟と雀鴨と一あやま小田の序 右序  
 古きやまの素りも雀のり子 雲居  
 のまむりしてハノ中へ浦迎ふ糸 葵更  
 引一やまをわたる舟も海も 二京  
 曳鶴と一声おつる川せぬ 馬 猿老

あつゝぬを糸とつる糸の雀糸 白二

時をみち中ゆしゆしゆ序 六 木公  
 遠くふきくまゆきく海より序 五 葵  
 静か海より一記起して海より序 雲霧  
 一舟の先か糸子持つる海より序 〇 士厚  
 雀子や鳴ぬまかしたく中へ糸 上 雲居  
 鳴下りて報謝出まをまをまへ糸 大可  
 空へ遠のふい糸や川へ海より 一 双  
 危さしゆや釘の先の地遊ふ見 松人  
 浅井舟生やゆきまゆきまゆき 〇 志泉





蛙  
田螺  
寄居虫  
貝寄

人より怪しき物と申すはけしき也 易陀岳  
 何れも人より怪しき物と申すはけしき也 梅室  
 角落りて麻の葉にけしき也 一雨  
 朝風をいよふ能くしけしき也 化麦  
 已れまぬ物と申すはけしき也 ちとあ  
 怪しき物と申すはけしき也 五月女  
 怪しき物と申すはけしき也 瓜乳

浮志川む東乃市一蛇を啼く蛙 士郎  
 野の三つはけしき也 助宣  
 子を持て志川へ入るはけしき也 梅室  
 象深や田のりり啼て何れ也 蕨山

鄙くも里より志川果内けしき也 三栄

影のなき物と申すはけしき也 秋拳  
 明れとて多の葉にけしき也 做鳥  
 田のりり不れりて何れ也 可然  
 ちよなき物と申すはけしき也 蕉五  
 貝と申すはけしき也 白三

あつれもを寄居虫の若も月也 士郎  
 まる水よりけしき也 思峰  
 掃却しけしき也 川果也 七条  
 何れもけしき也 松

弥生 以テ 雛祭 雛酒 州餅 鷄合

田中一啼を虫牙のりけ舞あり  
 汲河多を移身と鳴や弁乃蛙  
 多んとたて板中の多記性うん  
 あり虫をし夕日やうして鳴田中一  
 如風 櫻山 春山 応多

大勢乃霞も服多ぬ汝下ふ系 六一肖  
 足山多一旅の一一一汝下ふ系 六一肖  
 三日や花より介下り香も下し  
 楊士

多くあまをこぬりやうく汝下ふ系  
 男子乃正理り少を能かきり危  
 毛一水降死一倍も喉ひく色  
 奇三 櫻山 葛古

若うりてるくや汝下一の序り汝  
 衆も産るく一糸色ん虫す汝下引 五五 九来

能のりりくくきてくく記伝系  
 能のりりくくきてくく記伝系  
 娘一さや赤窮ぬ物と勢乃捕  
 孫舟の甲くくくくくくくくくくくく  
 居り能立知糸風性在くくく  
 市の能くくくくくくくくくくくく  
 追従てたりくくくくくくくくくく  
 能柳や孫くくくくくくくくくく  
 曉彦 莖水 白二 波文 友徳 芳岱 大可 応泉

岑入 鞦韆 別霜 炉塞

捲立をねくりて西き 巨魁くふ 五 笛

鞦韆戲やうくく此花を拵ふく 一 茶

ぬらあやまか乃使子押 亮 故

遠坂ハ紅ヲ藤とくやわやうハ此花 三 馬 頤

名に才也情てあふくふ此花の由 沙 詩

あつやや細とまてあふく 三 林 一 東 升

岑入や拵てあふくのも京第 履 一 山

炉塞やあふくも此花の由と高 大 可

手つふきて舟へちりやあふく 雲 山

炉塞やあふくもあのかきに寺 糸 白 二

花曇 花雨 花守 花宿

花曇りやあふくもあふく月あけ 本 海

中くしや花をいふあふく 太 節

清くも花のくあふり山の由 女 徳

花中を酔せて花よあふり 三 雲 免

花さやあふくかり小候もく 下 弄 桐 雨

あふくもあふく又あふくあ花の由 三 菊 也

あふくあふくあふくあ花の由 雨 堂

あふくあふくあふくあ花の由 一 具

あふくあふくあふくあ花の由 年 池

花月  
花鳥  
花鐘  
花風

む乃しちり一夜ハ河クや俄 雨 茅 黄山  
 快月しそちとい賤らし花の高 茅 岱  
 草もあもさし初し和良や花の高 白二  
 逢てゆく先も花あれむり白 白 九 雀  
 何所そてとささい目より月東風 沙 跡

西風の介りささくさく花東風 茅 花  
 四ちちり河くや和乃たくも是 茅 山  
 日の出とししものさあや花東風 茅 五 雲  
 花やとさあつていとぬさし花東風 茅 龜 壺  
 花東風 別れまをさあつら 静 たり 七 吟  
 忘 泉

花子 鐘いさあ休罷もあふ不隠し 七 郎  
 春ぬくも河く次 西東の花小鶴 千 崖  
 五あや休日をさあさす花小鳥 助 宣  
 五うら一ふさし一並文一花小風 雲 雄  
 文さぬもはよさぬさし花小風 成 火  
 方丈と指もむく次これ小風 京 花  
 花子花中鳥一もなり花月東風 茅 巢 花  
 大堰川く河休そむ小鳥あうく 月 居  
 花より叔もおしすぬ日あり危 茅 全 柳  
 娘ハくや竹もを花をたけり子 茅 素 花  
 因雨と声と娘ハくくささし 茅 文 光





櫻 散花 花打 遅櫻 花泉

くらり〜と桜もてあはれ月東うね  
 花を折らるる名ゆゑ花散るる事  
 かしら〜と花なりぬもな〜と山櫻  
 夕はく良む乃ち〜と夕中〜あはれ  
 名〜とあはれありあり花のち  
 雪多ふれと又月あはれち〜と  
 東の雪とち〜とあはれ花散るる事  
 静さ〜とむら〜とあはれち〜と  
 ち〜と花の〜と月あはれち〜と  
 ち〜と初〜と名乃ち〜とあはれち〜と  
 折せぬ〜といひ〜と桜も散るる事  
 花のち〜とあはれち〜と山櫻

道彦 成貞 素馨 且来 木海 岩外 唯巖 而后 李井 彩雄 一兆 音柳

桜咲てす〜とあはれ花のち〜と  
 咲ゆ〜と月を〜とあはれち〜と  
 花少〜と名を〜と桜の〜と本の〜とあはれ  
 草外や〜とあはれち〜とあはれち〜と  
 折る〜とあはれち〜とあはれち〜と  
 折る〜とあはれち〜とあはれち〜と  
 桜も〜とあはれち〜とあはれち〜と  
 花のち〜とあはれち〜とあはれち〜と  
 山あはれ〜とあはれち〜とあはれち〜と

士郎 桂五 素馨 蕉雨 昇左 下子 葵笠 一流 平 山 得 音 斗 和





排花 海棠 木瓜 辛夷 夷花 梨子花

詠之<sup>下</sup>一<sup>先</sup>もな<sup>く</sup>て<sup>枕</sup>乃<sup>花</sup> 菖<sup>三</sup>  
人<sup>の</sup>手<sup>り</sup> 何<sup>れ</sup>も<sup>た</sup>た<sup>し</sup>枕<sup>乃</sup>花 梅<sup>家</sup>  
木瓜<sup>の</sup>花<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>く</sup>も<sup>先</sup>り<sup>り</sup> 月<sup>居</sup>

胞<sup>子</sup>を<sup>下</sup>茶<sup>房</sup>なり<sup>き</sup>花<sup>り</sup> 蒼<sup>乳</sup>

ふ<sup>い</sup>と<sup>そ</sup>赤<sup>い</sup>と<sup>そ</sup>水<sup>の</sup>松<sup>乃</sup>花<sup>も</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

ふ<sup>く</sup>れ<sup>を</sup>ま<sup>ら</sup>ぬ<sup>ハ</sup>梅<sup>乃</sup>花<sup>も</sup> <sup>下</sup>子<sup>乃</sup>花

木<sup>か</sup>く<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>ら<sup>ぬ</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

日<sup>宮</sup>中<sup>也</sup>已<sup>う</sup>ち<sup>く</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

散<sup>り</sup>て<sup>梅</sup>夷<sup>と</sup>花<sup>り</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

海<sup>棠</sup>花<sup>も</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

萱花 薊 若艾 五枚花 小茶花

散<sup>り</sup>け<sup>て</sup>い<sup>よ</sup>く<sup>ふ</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之  
系<sup>う</sup>伸<sup>て</sup>い<sup>よ</sup>く<sup>ふ</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之  
月<sup>の</sup>あ<sup>を</sup>仕<sup>せ</sup>て<sup>散</sup>れ<sup>り</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之  
梅<sup>乃</sup>花<sup>も</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之  
花<sup>咲</sup>て<sup>梅</sup>乃<sup>花</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之  
咲<sup>く</sup>ち<sup>う</sup>ま<sup>て</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

災<sup>し</sup>厄<sup>な</sup>り<sup>し</sup>世<sup>なり</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

及<sup>ぶ</sup>手<sup>休</sup>透<sup>月</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

手<sup>を</sup>入<sup>る</sup>透<sup>を</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

乃<sup>艾</sup>也<sup>原</sup> <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

小<sup>茶</sup>花 <sup>上</sup>辛<sup>申</sup>之

琴疊豆花  
水竹土

莖ても登り少く二日解一瓢  
酒乃魚を忘下り新やを世王 芦角  
此近ひ乃ぬも世ふ莖うん 然果  
水子もあふ人古物清きり 竹重  
あつたあつたあつたあつたあつた 白二  
月底

花も世や花の中より小一升 粗文  
花世にたもこ世のふ橋九り 涼谷  
花世にたもこ世のふ橋九り 亮政  
花世にたもこ世のふ橋九り 弘之

藤花  
山吹  
連翹  
躑躅  
茶摘  
桑摘

及く乃地葉平死は世しうか 可振  
及柳や下のあつたあつたあつた 茶静  
お坊子あつたあつたあつたあつた 晚山  
橋娘のあつたあつたあつたあつた 白二

山吹や荒野子あつたあつたあつた 乙二  
連翹も中く黄きりあつたあつたあつた 尚帰  
山吹や咲きあつたあつたあつたあつた 乙良  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた 為中  
小坊子あつたあつたあつたあつたあつた 祇丞  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた 涼谷  
京家の給も世へてあつたあつたあつた 宗斎

藤の花を月乃草をふりしる  
 奇例  
 かしらゆいしあはれとあやむのた  
 成頁  
 葉のちた下りし畚乃子脱りたる  
 東印  
 ぬれりし畚の子並て田植か  
 拾葉  
 山吹や嫩乃衛哉ふいと死く  
 白二  
 とうけゆい松子とるあり柔摘唄  
 オク  
 耕山  
 はくしうまを腐りて山の間ふ  
 芳岳  
 早もろ白も初とまへ赤し山はくし  
 花重  
 山吹や暮あすもかきく次花身  
 虬竹  
 連麴やむしりしりやと休  
 応泉

呼子鳥  
 雲入鳥  
 鳥の巢  
 上真察  
 琴虫

葉乃戸や葉て長はものそ味子多  
 土郎  
 花ゆ急しし初まきととを味子多  
 下子  
 星谷  
 多々葉や枯木河のめ多負し  
 樂水  
 ま川凡や東の天虫乃ふしと休音  
 六  
 三人  
 多々ふいりや葉淡ふと川む葉を  
 白二  
 虫ししとたらしととと香うふ  
 一茶  
 多々やととりのや新波の香を  
 一水  
 多々葉や雨とあしととととせあり  
 一肖  
 折て多とと厚んをかりすととと  
 採葉  
 多々おとと枝も葉よととと鳥うん  
 友信  
 多々葉や毎日浅くしてととと  
 応心

好は天中もこころ出しんを物心  
 上の氣を足して鳴るの葉もか  
 汲まへとくしん新乃しきれんを  
 其友ちや葉こほきさう採しん  
 かくまてもあつた採りしんを  
 葉しんものふさの性あつたの中  
 服もあきん流しんやや葉葉  
 足入ふとと透葉しんを  
 ろしんをうけてのそむやや新  
 駕りもて着しんを味子さ  
 車代  
 秋香  
 令我  
 杉子  
 白二  
 梅庭  
 大可  
 弘々  
 映尤  
 応承

行春  
 夏隣  
 三月尽

春小のよむを我あつて仕とる  
 竹をとるしあつたあつたを  
 結儘な日わ乃中ををわし  
 竹まをや落葉もてしんを  
 其の葉もわ新ぬけやまの竹は  
 夏しん葉もまをてしんを  
 竹まをやまの中味しんを  
 竹まをわしんを猫乃をまを  
 まの好もしんをはみま隣  
 其村  
 成美  
 念々  
 木木  
 鹿舟  
 上人  
 月時  
 可然  
 応承

春進加

元朝や唐の言義ハまこと記ク次。  
 若くは其の云日まは漢所可  
 七子乃果を所し其ありは、  
 音不ある歎り下を其落のそ、  
 何足てもあるは其まは日水、  
 其まは子一果外乃出ま其、  
 の月まは甲ふ日の出二日可、  
 池まはけまちまはつや鏡、  
 一はうまは子も若子ま二日、  
 躍るそを今其まは其啼先、  
 三鳥

双泉

一水

梅亭

峯月

花影

东窓

挂雪

杏林

映龙

三鳥

